

第25回化学物質と環境円卓会議

環境省における
リスクコミュニケーションの取組について

平成22年3月24日

環境省環境保健部環境安全課長

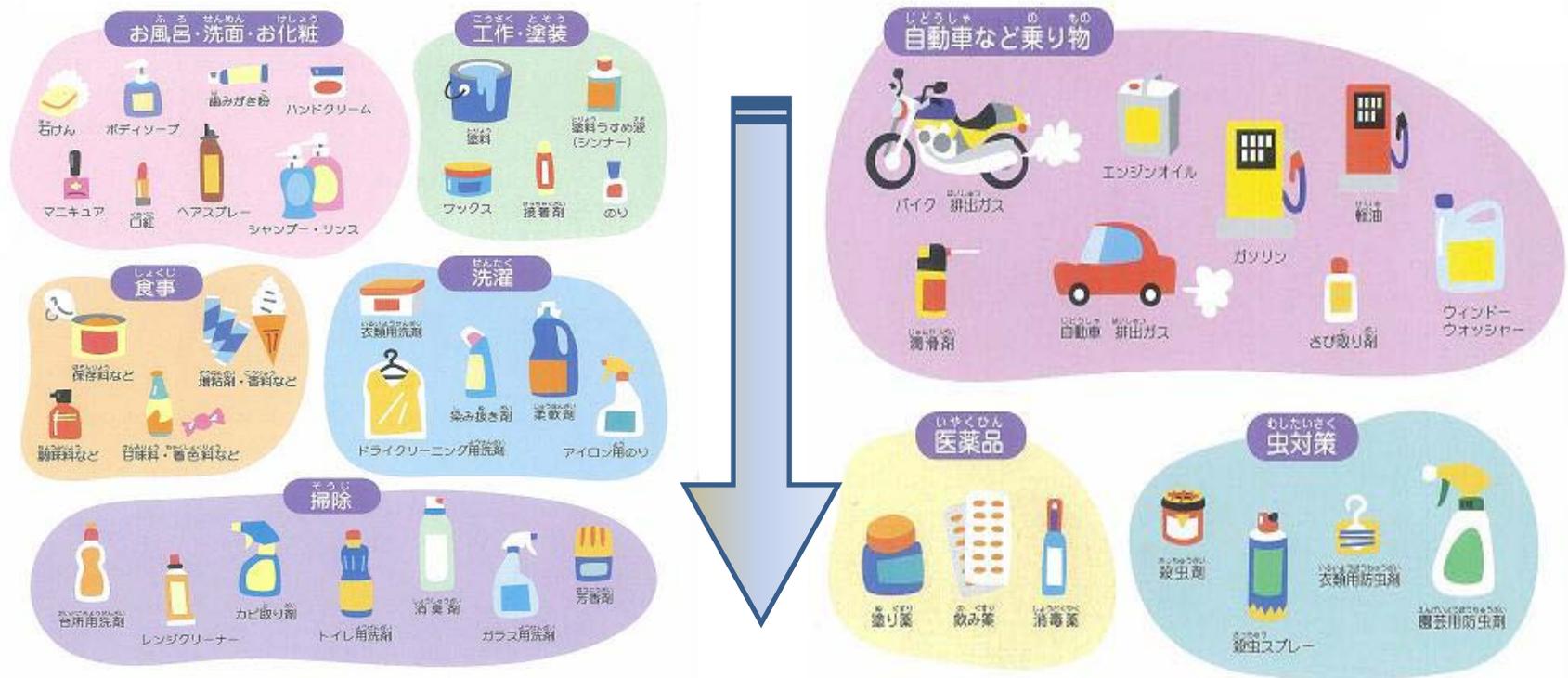
早水輝好

発表の内容

1. はじめに ～リスクコミュニケーションとは～
2. 環境省の取組
3. まとめ

はじめに リスクコミュニケーションの背景(必要性)

身の回りの物は化学物質から作られているにも関わらず、化学物質のリスク等について考える機会は少ない



化学物質を安全に使い、その便益を受けるには、化学物質についての知識・関心を持つことが重要

はじめに

化学物質のリスクコミュニケーションとは・・・

- 環境リスクなどの化学物質に関する正確な情報を市民、産業、行政等のすべての者が共有しつつ、意見交換等を通じて意思疎通と相互理解を図ること。
- 化学物質による環境リスクを減らす取組を進めるための基礎となるもの。

国内外の関連する動向と環境省の取組(1)

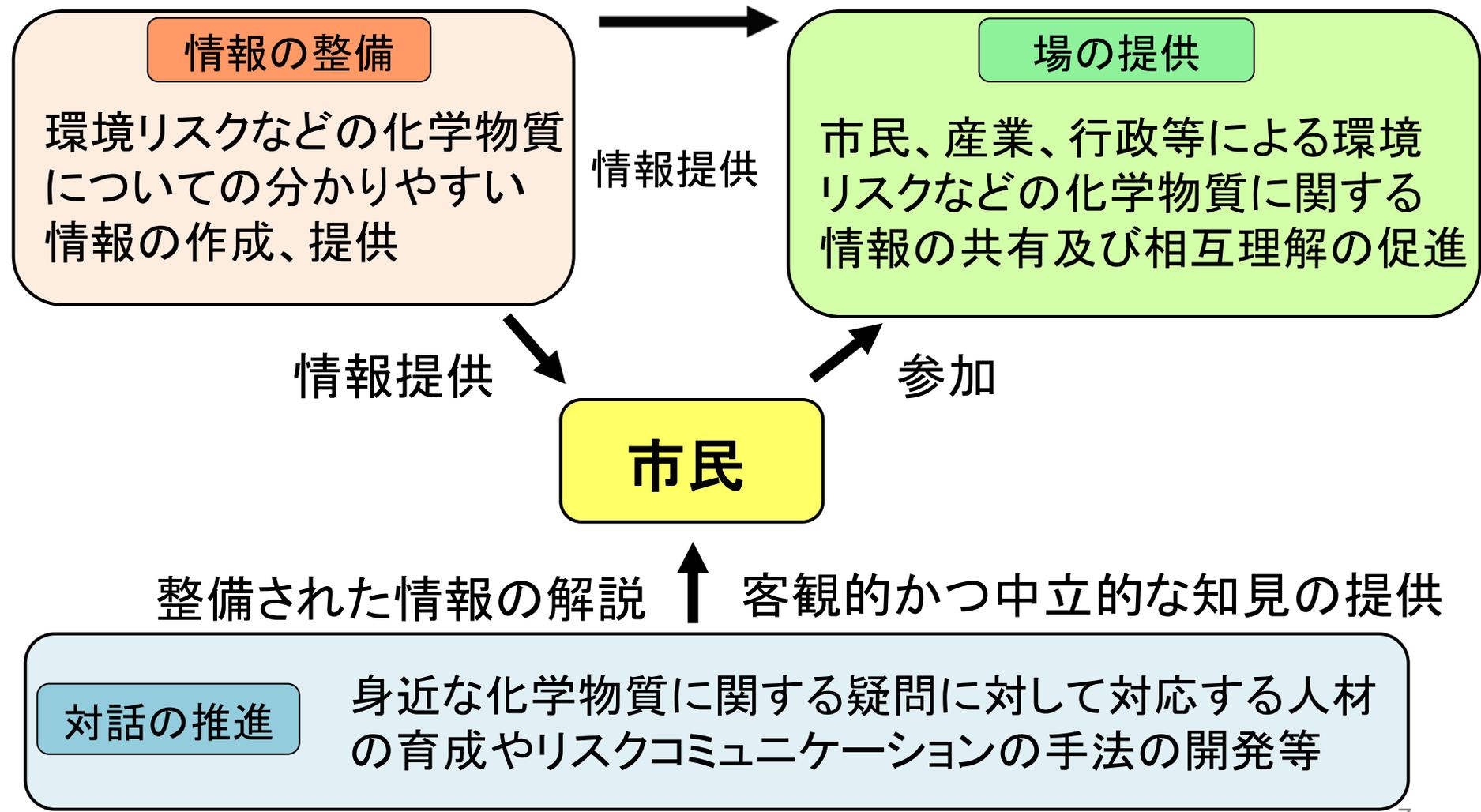
- 
- 2000年 化学物質排出把握管理促進法施行(PRTR, MSDS)
 - 2001年7月 環の国づくり会議
 - 2001年 第1回 化学物質と環境円卓会議
 - 2002年7月 リスクコミュニケーションの強化についてOECDによる勧告
 - 2002年8月 子供向けの学習ツール(「エコプラントゲーム」、「コレクター」、「つくろうポンポコ理想郷」)の作成
 - 2002年11月 自治体のための化学物質に関するリスクコミュニケーションマニュアルの作成

国内外の関連する動向と環境省の取組(2)

- 2003年 化学物質アドバイザー派遣開始
化学物質ファクトシート作成開始(以降毎年更新)
PRTRデータを読み解くための市民ガイドブック作成
- 2005年 かんたん化学物質ガイド作成
- 2006年2月 SAICM(国際的化学物質管理に関する戦略的アプローチ)採択
- 2006年3月 化学物質環境実態調査を読み解くための市民ガイドブックの作成
- 2006年4月 第3次環境基本計画
- 2006年5月 かんたん化学物質ガイドEラーニング版の作成
- 2008年 化学物質アドバイザーの増員・地方への配置の拡大

環境省の取組

環境省のリスクコミュニケーションの取組(全体像)



環境省のリスクコミュニケーションの取組(情報の整備)

情報の整備

- 環境リスクなどの化学物質についての分かりやすい情報の作成、提供
 - ・リスクコミュニケーションホームページの設置
 - ・PRTRデータを読み解くための市民ガイドブックの作成
 - ・エコ調査ガイドブックの作成
 - ・化学物質ファクトシートの作成
 - ・かんたん化学物質ガイドの作成
 - ・学習関連資料の普及 等

情報の整備(1) 化学物質ファクトシートの作成

- PRTR対象物質を中心に選定
- 市民が化学物質に関心を持った場合の情報源として、専門的で分かりにくい情報(用途、健康・環境影響、環境データ等)を分かりやすく整理し、簡潔にまとめたもの
- 2003年に初版を作成し、毎年更新(現在303物質を掲載)
- 冊子及びインターネットで提供



リスクコミュニケーションのための化学物質ファクトシート
[この文書を印刷される場合はこちら(PDF)]

ジクロロベンゼン (*p*-ジクロロベンゼン)

別名 : 1,4-ジクロロベンゼン, *p*-DCB
PRTR政令番号: 1-181 (旧政令番号: 1-140)
CAS番号 : 106-46-7
構造式 :

ClC1=CC=C(Cl)C=C1

- 化管法施行令の改正によって、*m*-ジクロロベンゼンは、他の異性体を含めてジクロロベンゼンとしてグループ化されましたが、本ファクトシートでは*p*-ジクロロベンゼンの情報を整理しています。
- *p*-ジクロロベンゼンは、衣類の防虫剤やトイレの防臭剤などに使われたり、合成樹脂の原料などに使われています。
- 2007年度のPRTRデータでは、環境中への排出量は約15,000トンでした。ほとんどが家庭から排出されたもので、ほとんどが大気中へ排出されました。

情報の整備(2) かんたん化学物質ガイドの作成(1)

- 身近な化学物質について、子どもにも分かりやすく解説
- 市民一人一人ができる環境リスクの低減のための取組についても紹介
- 企業や消費者等の勉強会の資料としても活用されている



情報の整備(2) かんたん化学物質ガイドの作成(2)

配布実績 (H22.3.15現在の配布部数)

わたしたちの生活と化学物質(発行:平成17年)	16,030
乗り物と化学物質(発行:平成17年)	11,151
洗剤と化学物質(発行:平成18年)	12,789
殺虫剤と化学物質(発行:平成19年)	9,656
塗料・接着剤と化学物質(発行:平成20年)	4,649

※「かんたん化学物質ガイド」の内容についてはHPからのダウンロードも可能であるが、その利用実績は把握していない。

環境省のリスクコミュニケーションの取組（対話の推進）

対話の推進

○身近な化学物質に関する疑問に対して対応する人材の育成やリスクコミュニケーションの手法の開発等

- ・化学物質アドバイザー育成・派遣事業
- ・かんたん化学物質ガイドeラーニング版の作成

対話の推進 化学物質アドバイザー

- 中立的な立場で化学物質に関する客観的な情報提供や
アドバイスをを行う人材(インタープリター)を派遣・育成
(現在45名登録)
- 派遣例: 事業者と工場周辺住民との意見交換
市民の勉強会 等

化学物質アドバイザーの派遣実績

年度	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21*
派遣回数	51	42	55	50	43	44	41

※H21はH22.3.26実施予定分までの合計

環境省のリスクコミュニケーションの取組(場の提供)

場の提供

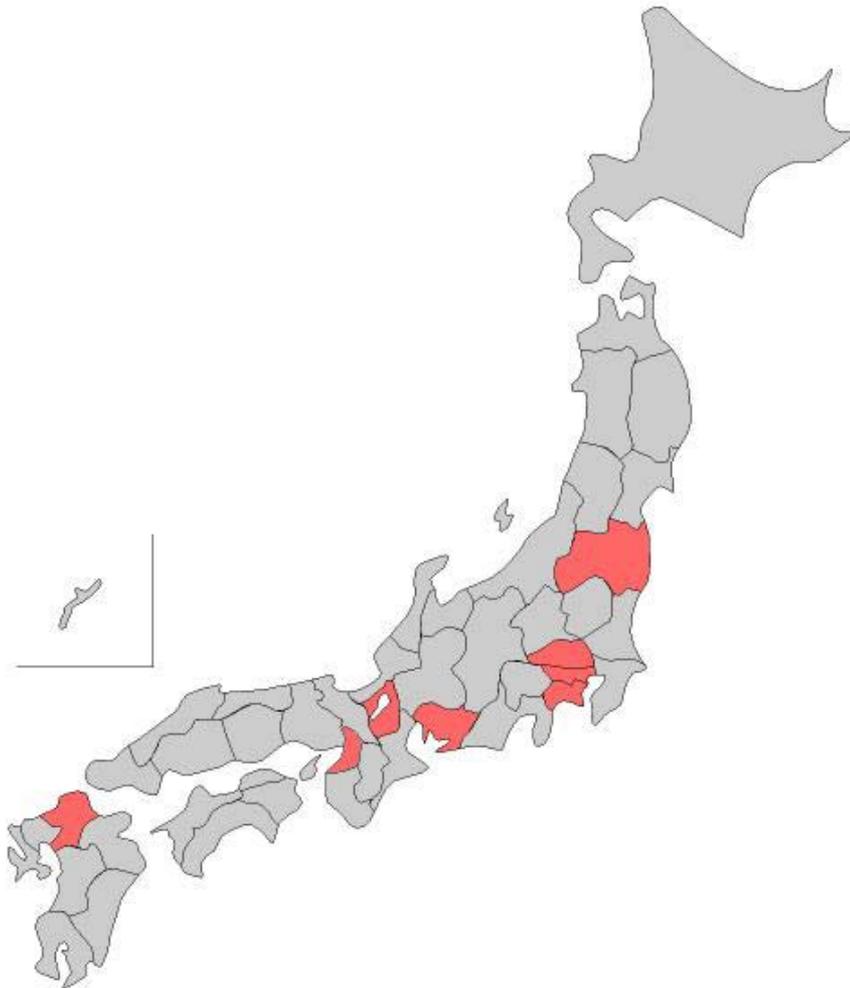
- 市民、産業、行政等による環境リスク等の化学物質に関する情報の共有及び相互理解の促進
- 化学物質と環境円卓会議の開設・運営
(24回の会議と2回の地域フォーラムを開催)

場の提供 化学物質と環境円卓会議(1)

- 化学物質の環境リスクに関する情報の共有及び相互理解を促進する場
- 市民(7名)、産業(7名)、行政(5名)、学識経験者(3名)から構成



場の提供 化学物質と環境円卓会議(2)



- ・東京都 20回 (第25回含む)
- ・福島県 1回
- ・埼玉県 1回
- ・愛知県 1回
- ・大阪府 1回
- ・福岡県 1回
- ・神奈川県 1回 (関東地域フォーラム)
- ・滋賀県 1回 (関西地域フォーラム)

【計】 25 (27)* 回

※ ()内は地域フォーラム(意見・要望を収集する場・情報共有の場)を含む回数

環境省における関連する取組

○PRTRの推進

- ・個別事業所データの公表(昨年公表分より)
- ・データ活用方策の検討

○GHS(分類と表示の世界調和システム)の推進

○化学物質の内分泌かく乱作用に関するリスクコミュニケーションの推進

- ・ホームページの作成
- ・身近な野生生物の観察事業*
- ・国際シンポジウム*

(*: 予算措置終了)

ま と め

- 環境省においては、リスクコミュニケーションの推進のため、「情報の整備」、「対話の推進」及び「場の提供」という観点から取組を進めてきた。
- 今後とも、予算が限られる中で工夫しつつ、市民、産業、地方自治体等の御意見・御要望や今回の円卓会議における御議論の結果等をもとに、リスクコミュニケーションを推進するための取組を進めていきたい。